

2010. 1. 25 (月)

徳島新聞

高次脳機能障害
支援策を学ぶ

徳大病院で講演会

交通事故や病気で大脳の一部を損傷し、記憶や

注意力に障害が残る高次脳機能障害者への支援策

を学ぶ講演会・シンポジウムが24日、徳島市内の

徳島大学病院で開かれた。専門家の講演に、患者やその家族ら約90人が

耳を傾けた。

千葉県千葉リハビリテーションセンターで支援

コーディネーターを務める太田令子さんは、青少年期の発症者の支援をテ

ーマに講演。子どもが周囲への不適応を起こした

際の対処法について「専門の医療機関では即時対応が難しいため、学校など身近な所から生活全体をサポートする必要がある」と指摘した。

社会福祉法人旭川荘(岡山市)の後藤祐之・

高次脳機能障害支援室長は、高次脳機能障害者の就労支援について説明。

「入院(治療)段階から、既に就労への道は始まっている」とし、職場

復帰や退職、新規就労への手順を紹介した。

講演会は、「高次脳機能障害者の地域生活支援の推進に関する研究」

四国ブロックが主催した。